

金堂

金堂は寺院の主要な拝殿に対する一つの呼び方で、通常、重要な崇拜対象を安置している。高山寺の金堂には、仏教の教祖であり歴史的な仏である釈迦如来（釈迦如来）が祀られている。8歳で両親を亡くした後、高山寺を創始した明恵(1173~1232年)は、釈迦如来を父親像として考えるようになった。

最初の金堂は、高山寺が創建された13年後の1219年に竣工した。寺院の見取り図を示す古地図によると、最初の金堂は精巧な構造で、複数の建物によって囲まれていた。彫刻の名人、運慶(1150~1223年)の作品をはじめ、宝物が多数所蔵されていたという。しかし、1547年の火災で建造物全体が焼失し、境内の建物の大半も焼失した。

1634年には京都の仁和寺の建物を高山寺に移築・改装し、今日私たちが目にする金堂を建造した。新しい建物は元の建物と同じ場所に建っている。